

令和元年度 事務事業総点検シート(1)
[平成30年度事務事業]

一般会計		事務事業分類	詳細点検
事務事業名	老人集会所運営	シート番号	A 一般事務事業 11-075
担当部署名	健康福祉 局 長寿社会 部 長寿支援 課	評価責任者(課長名)	羽野

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	1	暮らしの確かな安全・安心を確保します	後期実施計画の位置付け	
			施策	2	地域全体で支える福祉の仕組みづくり	無	
	2	事業開始年度	昭和 46 年度		終了(予定)年度	— 年度	
	3	根拠法令等 (法令、条例、規則、要綱等)	堺市立老人集会所条例				
	4	関連計画	堺市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(平成30(2018)～32(2020)年度)				
5	事業実施の経緯	厚生労働省通知の「老人憩の家設置運営要綱」により他市では老人憩の家が整備されるなか、本市においては類似事業として市立老人集会所の整備を進めてきた。また現在は、地域住民による主体的な活動をさらに促進するため、市立の老人集会所から地域の民設民営による老人集会所へと転換を図っている。					

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体 (誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input checked="" type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 () <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ()			
	7	事業の対象 (誰を、何を対象としているのか)	市内在住の各校区における高齢者			
	8	事業の目的 (どのような状況にしたいのか)	高齢者にとって身近な地域活動の拠点施設を提供することで、高齢者の主体的な活動を促進し、高齢者福祉を増進することを目的とする。			
	9	事業内容 (スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	従前より設置している堺市立老人集会所の施設管理を行うと共に、校区老人クラブ連合会等に委託して施設の運営を行う。			
	10	直接実施以外の主な支出先	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 () 校区老人クラブ連合会、校区自治会連合会			

Ⅲ. 投入量

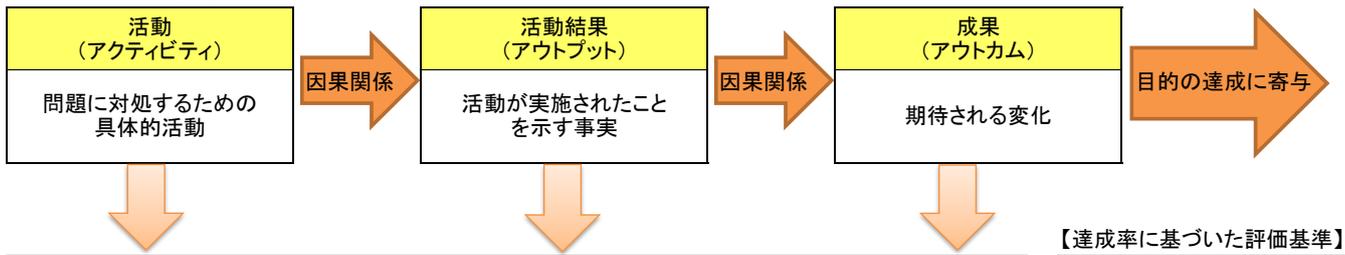
	項 目	単 位	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R1年度予算	
事業コスト	11 事業費 (a)	千円	4,020	9,694	14,884	8,110	
	主な事業費内訳	委託料	千円	2,044	7,212	3,793	2,283
		需用費(施設修繕料等)	千円	1,539	1,417	2,388	1,063
		施設改修・解体工事費	千円	0	650	8,001	4,294
			千円				
	財源内訳	国・府支出金	千円				
		受益者負担金(使用料、手数料等)	千円				
		市債	千円				
		その他()	千円				
		一般財源	千円	4,020	9,694	14,884	8,110
12	人件費 (b)	千円	2,460	2,460	2,460	2,430	
13	総コスト(c)=(a)+(b)	千円	6,480	12,154	17,344	10,540	

令和元年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	老人集会所運営	シート番号	11-075
-------	---------	-------	--------

≪Ⅳ. 評価(測定・分析)≫

ロジックモデルの考え方



【達成率に基づいた評価基準】

評価	達成率
大変良い	120%以上
良い	100%以上120%未満
普通	80%以上100%未満
少し悪い	60%以上80%未満
悪い	60%未満

事業の活動内容や成果

平成30年度実績								
活動実績と成果	14	<ul style="list-style-type: none"> ・老人集会所は、平成30年度末時点で23か所あり、平成30年度中に増減はなかった。 ・老人集会所の運営は、各校区の老人クラブ連合会や自治連合会等に委託した。 ・平成30年度の利用者数は、78,762人で、その用途は、趣味活動や老人クラブ活動であり、地域活動の拠点施設として機能した。 ・平成30年度は、台風被害対応やブロック対策のための施設修繕、改修工事を実施した。 ・老朽化した市立老人集会所を廃止し老人集会所に転換するにあたっては、地域や関係者(庁内外含め)との様々な調整が必要となる。平成30年度においても、2か所において、今後の方向性について調整を進めた。 						
	15	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
		老人集会所施設数 (年度末現在)	箇所	目標値	23	23	23	23
				実績値	23	23	23	23
				達成率	100%	100%	100%	100%
	評価	良い	良い	良い	良い	良い		
	算出方法・設定根拠など		老人集会所は今後、老人集会所に転換していく予定であるが、その調整に時間を要することから、当面は現状維持とする。					
	16	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
		利用者数	人	目標値	-	-	-	-
				実績値	86,507	83,438	78,762	78,762
				達成率	-	-	-	-
	評価	-	-	-	-	-		
	算出方法・設定根拠など		老人集会所は今後、老人集会所に転換していく予定であるため、積極的な利用を目標として設定するのは適さない。					

業績の分析

17	目標を達成できた、または達成できなかった要因についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)
通常	通常の施設の維持管理に加え、災害時などの対応も迅速に実施したことで、適切な施設維持管理を行うことができたことから、地域の高齢者に対し地域活動の拠点施設を提供できた。

【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 事業の有効性は高いですか。低いですか。